

2026 親子で学ぶ平和学習資料

私の戦争体験

第48集



おじいさんやおばあさんが
体験した 大切な大切なお話の数々
～思いをつなぐ。未来につなげる。～

巻頭特集「大阪空襲を語り継ぐ」… P2

「私の戦争体験アーカイブ」のご紹介 … P4

大阪大空襲 濱田 縫子 … P5

祖父と戦争 浦田 久美子 … P8

戦中の記憶 西田 弘子 … P11

私の戦争体験 原 道子 … P13

幼少時の戦争の記憶 谷口 壽信(聞き取りによる代筆) … P16

疎開 田中 伸彦 … P19

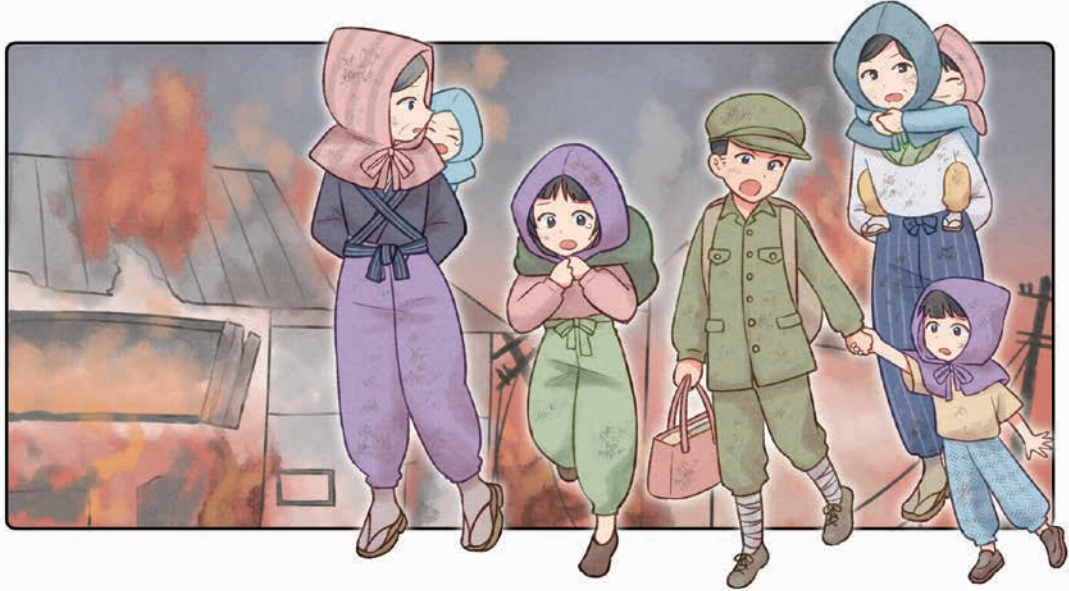


くらしに笑顔お届けします

大阪いずみ市民生活協同組合

おお さか だい こう しゅう
大阪大空襲

羽曳野市 はま だ ぬい こ 濱田 縫子 94歳



しょうわ ねん がつ にち
昭和20年3月13日、この日は

わたし 私にとって、生涯忘れる事の出で

き 来ない日になってしまいました。

おおさか ちゅうしん ひ うみ な
大阪の中心が火の海に成っ

た、**大阪大空襲**の日です。

とうじ わたし にしく みみほりえ す
当時、私は西区南堀江に住

む、女学校一年生でした。

その日も夜、**警戒警報**につづ

いて**空襲警報**。いつもと違って

解除のサイレンも中々鳴らず外

が騒がしく成り、空は真っ赤。

ちやうない けいぼうだん で ちち
町内の**警防団**に出ていた父を

ま 待っていたが帰って来ず、連絡

で き も出来ないまま、母と兄15歳、

おとこ さい ちか す お
弟5歳と近くに住んでいた叔

ば いとこ さい さい
母といとこ3歳、いとこ1歳の

おおさかだいこうしゅう
大阪大空襲

1945年3月13日深夜から翌日未明にかけて最初の大阪大空襲があり、その後、6月1日、6月7日、6月15日、6月26日、7月10日、7月24日、8月14日に空襲があった。これらの空襲で1万人以上の一般市民が死亡したと言われている。

けいかいけいほう
警戒警報

敵機の大空襲のおそれがある場合に出された警報。

くうしゅうけいほう
空襲警報

敵軍航空機による空襲から避難を促すためにラジオやサイレンなどで知らせる警報。

けいぼうだん
警防団

1939年に制定された「警防団令」に基づき設立された市民保護のための国の組織、団体。当時の空襲や自然災害から市民を守るために設けた。1947年廃止。

七人^{しちにん}で家^{いえ}を出^でて、路地^{ろじ}から表通^{おもひ通り}に出^でた途端^{とたん}、竜巻^{たつまき}の様な熱風^{ねつふう}に押^おしもどされてしまいました。西^{にし}の方は火^ひの海^{うみ}、空^{そら}一面^{いちめん}に大小^{だいしやう}の火^ひの粉^{こな}がとび、自転車^{じてんしゃ}まで電線^{でんせん}の上に巻き上^まげられていました。そして西^{にし}の方^{ほう}から火^ひが迫^{せま}って来て大勢^{おおぜい}の人々^{ひとびと}が東^{ひがし}へ東^{ひがし}へと逃げまどっていました。私達^{わたしたち}もすぐ近く^{ちかく}の電車^{でんしゃ}通りまで出^でたのですが、そこも架線^{かせん}に火^ひがついてパラパラと落ちてきて歩^{ある}けません。又東^{またひがし}へ、橋^{はし}を渡^{わた}り、八幡筋^{はちまんすじ}を通^{とお}って、御堂筋^{みどうすじ}に出^でました。

大勢^{おおぜい}の人々^{ひとびと}にまぎれて、いとこ1歳^{さい}をおんぶした叔母^{おば}とはぐれてしまいました。「大丸^{だいまる}」も「そごう」もまだ無事^{ぶじ}でした。

人々^{ひとびと}が右往左往^{うおうさおう}する中^{なか}、どっちに逃げようと立^たっていた時^{とき}、兵隊^{へいたい}さんがのったトラックが北^{きた}から南^{みなみ}へと通り乍^{ながら}、「その火^ひをくぐつたら向^{むこ}うは少し鎮火^{ちんか}しているよ」と、どなって通り過^すぎて行^いきました。新橋^{しんばし}を渡^{わた}って北^{きた}へ向^{むか}うと、すぐ角^{かど}のビルが窓^{まど}から火^ひを吹^ふき、その前^{まえ}のビルも同じ様^{おな}様に燃^もえていました。火^ひの勢^{いきおい}に思^{おも}わず立ちすくんでいましたが、でも助^{たす}かるには、ここをくぐり抜^ぬけねばなりません。東^{ひがし}の角^{かど}の大きな防水池^{ぼうすいけ}で、防空ずきん^{ぼうくうずきん}や肩^{かた}や背中^{せなか}をぬらして、こわごわ走^{はし}りました。幼い弟^{おとうい}もいとも、泣^なき声^{こゑ}も出^ださず、母^{はは}と兄^{あに}の肩^{かた}にしがみついています。長い長い炎^{ほのお}のトンネルの様に思^{おも}い乍^{ながら}、全速力^{ぜんそくりきょく}で走^{はし}り抜^ぬけました。広い広^{ひろ}い、御堂筋^{みどうすじ}のおかげで、やけどもせず少し火^ひの治^{おさ}まった難波神社^{なんばじんじや}の前^{まえ}に出^でました。北^{きた}の御堂^{みどう}さんも、南^{みなみ}の御堂^{みどう}さんもやけ落ちて、くすぶっていました。煙^{けむり}にまかれ倒^{たお}れている人^{ひと}、やけどの人^{ひと}も倒^{たお}れていま

した。でも助^{たす}ける気力^{きりよく}も無^なく皆自分^{みなじぶん}の家族^{かぞく}を探^{さが}すのに必死^{ひつし}でした。私達^{わたしたち}も父^{ちち}と叔母^{おば}の名^なを叫^{さけ}んで、探^{さが}し歩いていました。朝方^{あさがた}、煤^{すす}のまじった黒^{くろ}い雨^{あめ}が降^ふって来^きました。顔^{かお}も煤^{すす}だらけ、服^{ふく}も煤^{すす}だらけ、雨^{あめ}の中^{なか}「北^{きた}へ」「北^{きた}へ」と歩^{ある}いて梅田^{うめだ}に着^つきました。そこで兵隊^{へいたい}さんのたき出しに

出^で会^あい、大きな大きな、おにぎりを戴^{いた}きました。長^{なが}かった恐怖^{きょうふ}と緊張^{きんちやう}と疲労^{ひろう}……ホッとして、とても美味^{おい}しく嬉^{うれ}しく涙^{なみだ}が出^でました。父^{ちち}や叔母^{おば}とは翌日^{よくじつ}北区^{きたく}の伯父^{おじ}の家^{いえ}で会^あう事^{こと}が出来^{でき}ました。でも父^{ちち}の姉^{あね}一家^{いっか}は浪速区^{なにわく}の方^{ほう}で焼死^{しょうし}していました。あの広^{ひろ}い御堂筋^{みどうすじ}が無^なかったら私達^{わたしたち}も、もっともって大勢^{おおぜい}の方^{かた}々^{がた}も亡^なくなっていたでしょう。今の平和^{へいわ}が長^{なが}く続^{つづ}きますように、心^{こゝろ}から祈^{いの}っております。



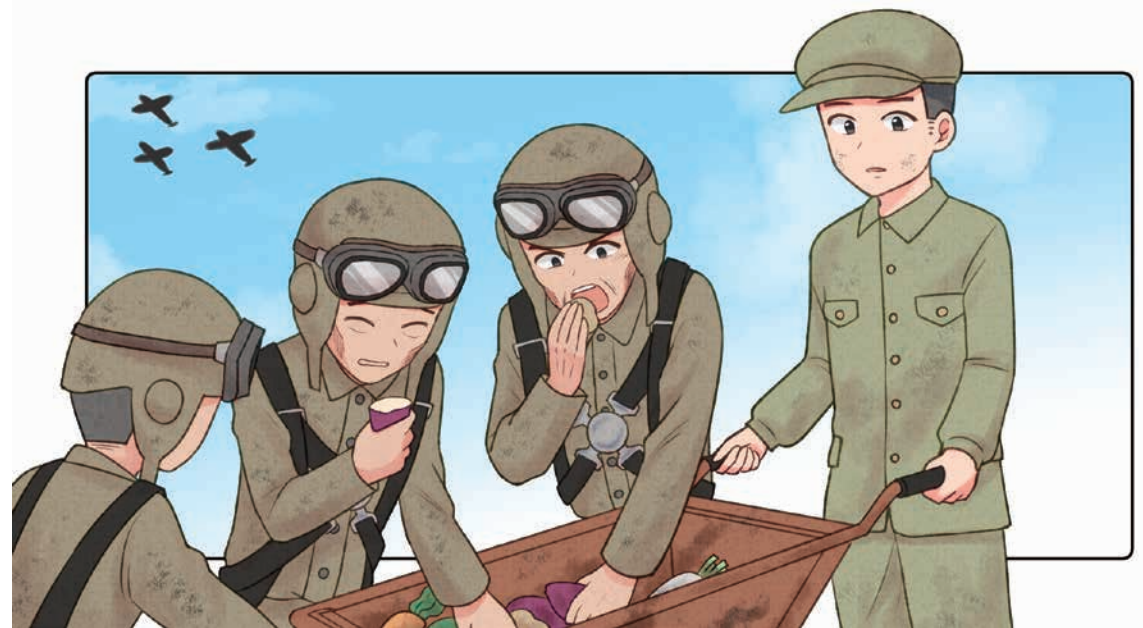
右端にそごう百貨店。3月13～14日の大空襲後そごう店内は軍事工場になっていた。一面瓦礫で、土蔵がわずかに残る。手前の道を北へ行くと文楽座が残っているが、この写真には見えない。 写真提供：ピースおおさか

防水池
空襲などによる火災が発生した際、消火活動に使う水を確保するために作られた「防火用水槽（池）」。

防空ずきん
戦時中、空襲などの際に飛来物から頭を守るためにかぶった綿入れの頭巾。

祖父と戦争

堺市 浦田 久美子 57歳



大正生まれの祖父のアルバムの中に祖父母の結婚式の時の写真を見つけました。幸せそうに心優しいような笑顔を浮かべる祖父。そんな祖父は、私の知っている祖父とはまるで別人でした。これは大阪府泉佐野市で暮らしていた私の父方の実家の話になります。

農家の次男として生まれた祖父は、米を作り野菜を育て農業を生業として暮らしていました。また、動植物を大切に育て、庭には世話の行き届いた樹木が林のように並んでいたそうです。やがて祖母と出会い結婚。

生業
くらしを立てるため、または生きていくために日常的に営む仕事(職業・生計の手段のこと)。

二人は、今の時代の新婚の方たちと同じく幸せな家庭を築こうと暮らしていました。しかし、そんな平和な生活は長く続きませんでした。祖父は陸軍に徴集され、一人残った身重の祖母は昭和十六年春に私の父を出産しました。父が一歳になり歩きはじめた頃、祖父が精神を病み戻って来ました。しかし、この祖父の病気が後々父を苦しめます。父のことを「自分の息子」だと認識がもてず、**筆舌に尽くし難い**虐待をしました。父の背中にはこの時の傷跡が生涯残りました。

ある日「飛行場建設のための説明会」があり、村の人が参加しました。そこで、「国が飛行場を作る。そのために田畑を渡しなさい。反対すれば命はない」と祖父は**銃剣**をつきつけられおどされました。田畑を明け渡し、飛行場にあたる土地は、由緒ある神社も含めて全てコンクリートで固められました。わずかに残った畑でさつまいもを中心に栽培し、収穫した野菜を祖父が**一輪車**で飛行場まで運びました。そこではやせて骨と皮になった兵士たちが一輪車の野菜にかけ寄り、生のまま野菜を芋の根まで食べ尽くすのでした。いつしか飛行場のことを地元では**特攻基地**と呼ぶようになっていました。訓練機も含めて中継点の**知覧**へ向かい、そして南の空へと離陸するのですが、墜落も多くありました。その度に祖父を含めて地元の人で「片づけ」をしました。物資が足りず紙のようにうすい機体、ペダルはスリッパで代用。兵士の命を守る装備は無く、やせてあばら骨の浮いた兵士を**茶毘に付した**、と聞いています。また、特攻の命令を受けた兵士たちは、「ちくしょう!」「お母さん!」と故郷の空に向けて叫び離陸した

徴集
兵役制度で、強制的に現役または補充役に編入すること。

筆舌に尽くし難い
言葉では到底表現しきれないほどの、ものすごいありさまのことをいう。

銃剣
平常は鞘におさめて腰に帯び、突撃または接戦の場合、銃の先につけて敵を刺すのに用いる短い剣。また、それを先につけた銃。

一輪車
土砂や農作物を運ぶ「手押し車(ネコ車)」。

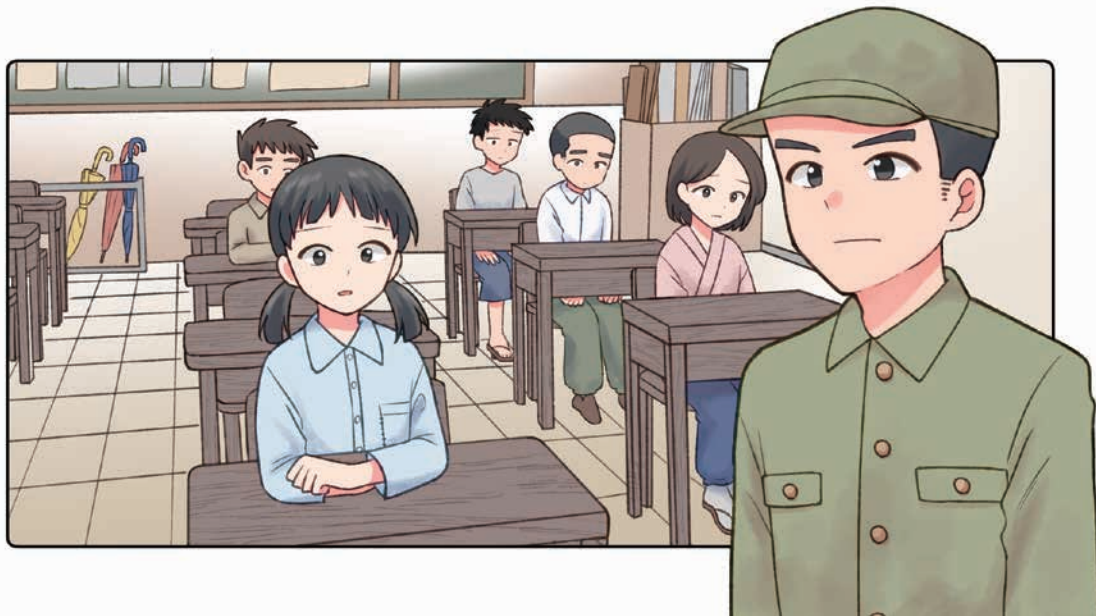
特攻
特別に編成して攻撃すること。特に第二次大戦末期に行われた、旧日本陸海軍による体当たり自爆攻撃のこと。

知覧
鹿児島県南九州市にある地域で、第二次大戦末期に陸軍の特攻基地(知覧飛行場)が置かれていた場所。

茶毘に付した
仏教用語で故人のご遺体を火葬することを指す丁寧な表現。

戦中の記憶

富田林市 西田 弘子 89歳



こと、この風景は忘れられないと村の人たちは話しました。祖父は戦地でのことが頭から消えず、「戦列を組む時に出身地で順を決められ、泉州は前列の方へ行かされた」などと話し、兵士の方たちと過ごそうとしていました。幼い父のことは祖母が一人で育てました。やがてB29が空を覆うようになりましたが、和泉山脈を越えて来るB29は突然現れるように見えて、父は「あの時の恐怖は忘れられない」と晩年に話してました。B29来襲の時は、祖母は父を布団に寝かせ、掛け布団を2枚かぶせて水をかけて、その上から自分がおおいかぶさり「私が守る」と盾になったのでした。幸いにも空襲は免れ、終戦を迎えましたが、コンクリートで固められた田畑を元通りになるまで耕したのは、子どもだった父でした。戦後もこのように学校を休み家のための労力となった子どもたちがいきました。戦争は世代をわたって人々を苦しめました。祖父が手厚く世話をした樹木は枯れ木となり、父のことを虐待する場となりました。田畑は父が一人でよみがえらすのに二十年かかりました。祖父の家には墜落した敵機のそばで誇らしげに立つ祖父の写真が飾られていました。不機嫌に怒っている祖父。私はそんな祖父しか知りません。

ほとんどが父と祖母から聞きました。直接経験していなくても、思い出すだけで心が重苦しくなる話です。でも戦争を体験された方が高齢化する中、直接話を聞いた世代として書かせて頂きました。「戦争は、死んでも生き残っても地獄」そんな祖母の言葉が思い出されます。

私は昭和十一年に生まれました。父は四回出征しました。赤紙が届けば審査を受けて甲種合格で決まります。家は農家でしたので、村中の人が稲刈りとか後の野菜の植付けなど手伝って下さいました。ある時、村に大きな池があつて、池の周りに「工場の人達」が白い布を一面に干されていたところ、それを目がけてB29がバリバリと大きな音を立てて屋根すれすれに飛んできました。祖母がお金お金と、大声で走りまわったのを覚えていいます。幸い空爆もなくB29が通り過ぎて一安心でした。

B 29
アメリカのボーイングが開発した大型戦略爆撃機。B29による日本本土空襲は、日本の継戦能力を喪失させる大きな要因となった。

空襲
航空機から地上を爆撃したり、銃撃したりすること。

終戦
1945年8月15日、正午からのラジオ放送により、ポツダム宣言の受諾、日本の降伏が国民に公表され、太平洋戦争が終結した。

出征
軍隊に加わって戦地に行くこと。

赤紙
召集令状の俗称。用紙が赤いことからこのように言われた。軍隊に召集する命令文書。

甲種合格
主に戦前の日本において、徴兵検査で身体強健かつ最も兵役に適していると判定された状態のこと。当時は「甲乙丙」などのランクで分けられ、甲種合格は一番の誇りとされた。

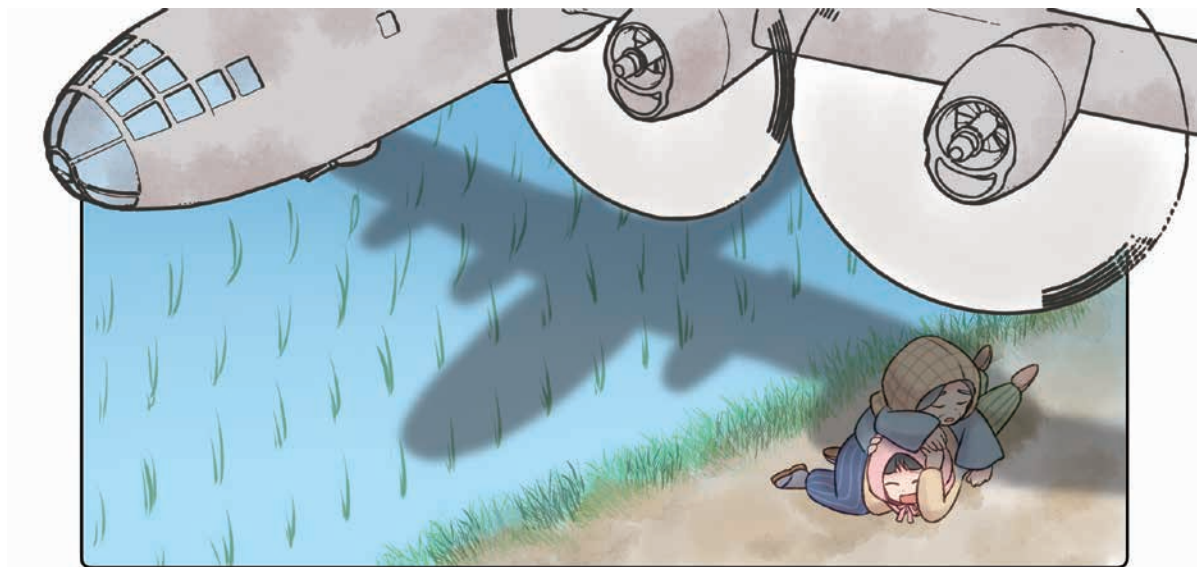
B 29
アメリカのボーイングが開発した大型戦略爆撃機。B29による日本本土空襲は、日本の継戦能力を喪失させる大きな要因となった。

空爆
「空中爆撃」の略。航空機から地上を爆撃したり銃撃したりすること。空襲とも呼ばれる。

空襲警報
敵軍航空機による空襲から避難を促すためにラジオやサイレンなどで知らせる警報。

私の戦争体験

岸和田市 原 道子 86歳



又空襲警報が一日に何度もひびき渡りました。警報があれば電球に布をかけて暗くして夜を過ごしました。私が国民学校二年生の時に一人の男子、上級生が教室にこられて「僕は特攻隊に行くんや」と言って机に座られました。「ミナミヤマアキラ」と言われたと思います。その方の顔を思い出します。その時は、何も言えず胸がはりさけそうでした。そして月日がたつて、父が除隊で無事に帰ってきました。何とも言えない悪臭で帽子をかぶり、軍服を着て、足はゲートルを巻いていました。下着にはシラミがたくさん付いていました。当時はDDTで頭から薬をかけてもらった事もありました。その頃私達の田舎では、親戚をたよって疎開、家族全員が家をかりて住んでいました。堺方面又京都からもたくさん来られて生活されて、みんな食生活に苦労をされていました。幸いにも私達の村は大きな被害もなくみんな健康で生活していました。そして再び農業を始めました。学校から帰ればかばんを置いてすぐに田んぼに行きました。父母は田んぼで待っていました。どこの家でも同じだったと思います。

今の日本は戦争のない平和な国ですが、毎日の様に交通事故とか殺害とかテレビで放送されているのを見るたびに心が痛みます。少しでも事件が起きない事を祈るばかりです。



私が生まれて3ヶ月後、父が戦争に行き、小学校入学前に、タイ、ビルマからボロボロの毛布を持って帰って来た。夕方、この人が父だとわかるまでに時間がかかった。父の戦地の話を聞くと、明るい時は草むらにかくれ、夜に歩いて進軍する。食べ物はさかずき一杯の米。森の中の草、亀、ヘビ、ワニ、口に入るあらゆる物で飢えをしのいでいた。海の方から日本の軍艦が近づくと、敵の魚雷で、目の前であつと云う間に食料、武器、兵隊が沈んで行くのでがっかりし、また夜にな

国民学校

1941年(昭和16)、それまでの小学校が国民学校に改められた。子どもは、個人の子どもではなく、お国の子どもとして教育され、戦争につながる教育が行われた。

特攻隊

「特別攻撃隊」の略。第二次世界大戦で、旧日本陸海軍が体当たり戦法のために、特別に編成した部隊。爆装して敵艦に体当たりした航空特攻と、特殊潜航艇や人間魚雷などの海上特攻があった。

除隊

兵役を解除されて軍隊から帰ること。

ゲートル

兵隊が長い時間移動する時に足の疲れを少なくしたり、戦闘中にケガを防ぐために足に巻いていたもの。

シラミ

哺乳類の皮膚に寄生し、血液を吸う。

DDT

身体や衣類に付着したノミやしらみなどの害虫を駆除する薬品。

疎開

攻撃目的となりやすい都市に住む児童、老人、女性などを分散させ、田舎に避難させること。

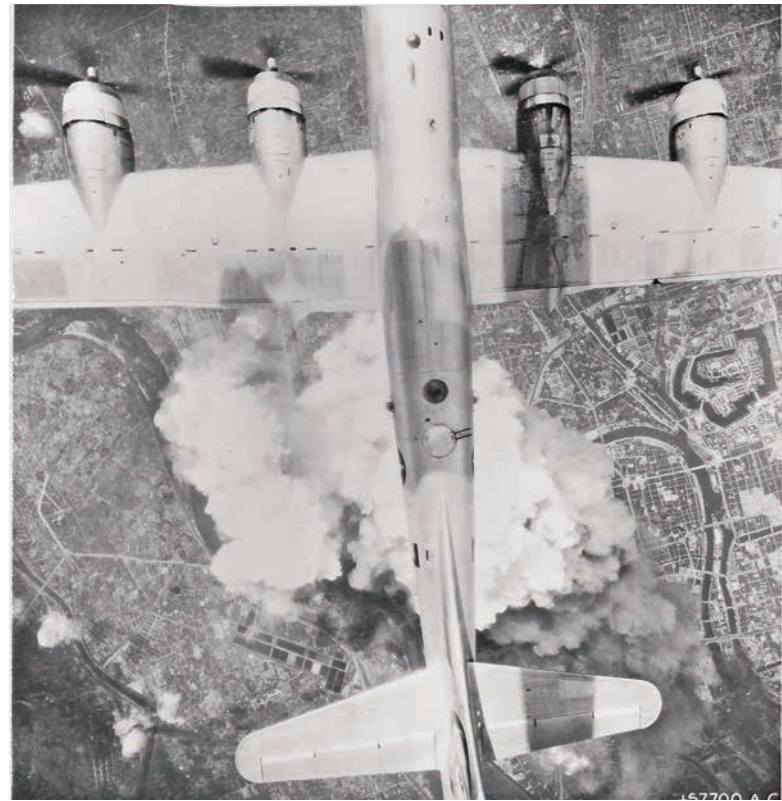
軍艦

国家の海軍に所属し、軍籍にある士官が指揮し、正規の軍隊の規律に服する乗組員が配置された戦闘用船舶の総称。戦艦、空母、潜水艦、駆逐艦、補給艦などを含む。

魚雷

潜水艦や水上艦、航空機から発射し、水中を自走して敵の艦船を爆発・撃沈する水中兵器のこと。

ると歩いて進軍。医者いしゃの薬くすりもなく、ひもじさとマラリア熱ねつ、下痢げり、栄養失調えいようしつちょうで死ぬ人ひとが戦たたかつて死ぬより多かった。父ちちが入隊にゅうたいの時は二等兵にとうへい、終戦しゅうせんで母国ぼこくに帰る船ふねで一等兵いっとうへいになり、後あとから船ふねも兵隊へいたいも来こず、父ちちの軍ぐんも少すくなくなり、やっと終戦しゅうせん。父ちちの苦勞話くろうばなしは聞く人ひとの涙なみだで終る、母ははの苦勞話くろうばなしも私達わたしたちのひもじさ、栄養失調えいようしつちょうで言葉ことばにならぬ。毎日まいにち夕方ゆうがた、空襲警報くうしゅうけいほうのサイレンなが鳴ると母ははが家いえを守り、祖母そばと私は歩いて30分ふん、南海電車なんかいでんしゃの線路せんろわきの田んぼで寝そべってB29（米国飛行機）が頭あたまの上うへを通りすぎるまでブルブルふるえ頭あたまを手てでかくした。B29が通りすぎるまで生きた気がしないほど、おそろしかった。ある夜よる、大阪おおさかの方向ほう向の空そらが真っ赤かになり、B29が飛んできて、私の頭あたまの上に落ちた。これで終りやと思った時とき、祖母そばが私の身体しんたいの上うへにかぶさっていた。飛行機ひこうきからパラパラと大きな音が聞こえ、風かぜに流され私達わたしたちの頭あたまの上に落ちたと思ったが、それが大北町おおきたまちに落ちたと後でわかった。あのおそろしさは今でもぞっとする。服ふくと顔かお、手足てあしが田んぼのドロで汚よごれていて、沼地ぬまちに落ちたと後でわかった。今でも花火大会はなびたいかいでシューと天てんに上のぼってドーンと音がしてパラパラと落ちて来るのを見ると、焼夷弾しょういだんが落ちたときの事がよみがえり、ぞっとする。終戦後しゅうせんごも配給はいきゅうで、並ならんで食料しょく料をもらって帰かえって来たが、すぐなくなり、母ははがメリケン粉メリケンこで作つくったうどん、むしパンがおいしかった。さつまいもは親指おやゆびくらいの太さで水みずくさく、すじばかり。朝食ちうしき昼食ちうしき、ともにさつまいもばかり。梅干大うめぼしだいのじゃがいも、トーマロコシのカステラ、甘みなし。ただお腹なかをふくらますだけ。ある日ひ、保育所ほいくしょに進駐軍しんちゅうぐんが来て、私達栄わたしたちえい



大阪を襲う「超空の要塞」 B29 右主翼下に大阪城が見える
(1945年6月1日) 写真提供：米国国立公文書館
U.S. Air Force, U.S. Air Force Number 57700AC

が、ランドセル、筆箱ふでばしはダ
ンボール。私わたしのものは母親ははおや
の帯おびの芯しんで、手ぬいで作つく
てくれた。洋服ようふくも母ははの着物きもの
で作つくてくれた。給食けいしょくの脱脂粉乳だっしふんにゅうは、紙かみの上うへに粉こなを入
れ、くしゃみをすると、と
んでいった。鉛筆えんぴつは3cmま
で使つかい、ノートは茶色ちやいろでザ
ラザラ、今いまの生活せいかつは夢ゆめのよ
うだ。

マラリア熱
「マラリアという小さなバイキン（原虫）を持っている蚊」に刺されることで感染する病気。

終戦
しゅうせん

1945年8月15日、正午からのラジオ放送により、ポツダム宣言の受諾、日本の降伏が国民に公表され、太平洋戦争が終結した。

空襲警報
くうしゅうけいほう

敵軍航空機による空襲から避難を促すためにラジオやサイレンなどで知らせる警報。

B29

アメリカのボーイングが開発した大型戦略爆撃機。B29による日本本土空襲は、日本の継戦能力を喪失させる大きな要因となった。

焼夷弾
しょういだん

敵の建造物や陣地を焼くことを目的とした砲弾や爆弾。木造の日本家屋を効率よく焼き払うために使用された。

配給
はいきゅう

数量が十分でない物資を家庭ごとによりあてて配る制度。

メリケン粉
メリケンこ

アメリカから輸入された小麦粉の呼び名として、アメリカン粉がなまってメリケン粉となったもの。

進駐軍
しんちゅうぐん

第二次世界大戦後の1945年から1952年まで、日本の占領・統治を行った連合国軍（主に米軍）のこと。

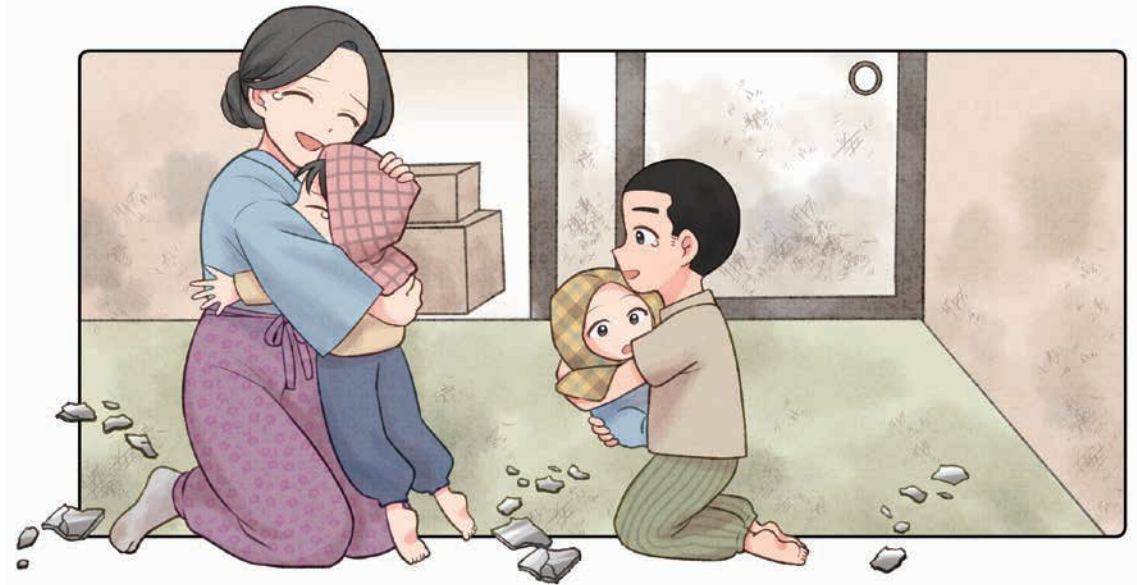
脱脂粉乳
だっしふんにゅう

生乳から脂肪分を除去し、水分を飛ばして粉末状にしたもの。

幼少時の戦争の記憶

泉佐野市 谷口 壽信 87歳
(ご本人からの聞き取りによる代筆)

ご本人による
語り継ぎ動画
はコチラ ▶



終戦時、私は5歳でした。自身の記憶は断片的ですが、母から聞いた話などとあわせて体験したことを伝えたいと思います。

当時、両親と2人の兄、姉、妹、私の7人家族で天王寺区に住んでいました。昭和20年3月13日の夜に最初の大阪大空襲がありました。空襲警報が鳴って、「火事がそこまで来ているから、すぐ避難しなさい」と言われ、私は「この家を離れたくない」と言っただけで玄関の柱にしがみついていたのですが、小学校6年の姉の体に荒縄で結ば

れ、背中に妹を背負って避難したそうです。

朝、防水桶の上で大きな弁当箱にお米の入った弁当を食べました。上六日赤病院の近くに行ったところ、空襲で顔が焼けただれ、のっぺらぼうになったお坊さんがお経を唱えている姿を見ました。自宅を探しましたが全焼し、天王寺警察に行っただけで長男が来て、大江小学校に避難してました。避難中、小学校のグラウンドで大鍋でご飯を炊いている時、空襲警報が鳴ると同時にグラマン機がきて、2階の教室に30cm間隔で機銃掃射を受けました。

その後、生玉神社の源聖寺坂の中間の民家に避難させてもらいましたが、2歳の妹が一日中泣きやまず、先方さんから、「家族に迷惑なので他を探してください」と言われました。それから、桃ヶ池の阪和線寄りの医者住宅に避難しましたが、数日後、軍隊の通る道なので立ち退きになりました。桃ヶ池の南側の住宅に移りましたが、空襲が始まると、防空壕の空気がないため、阪和線のガード下へ避難しました。その後、何度目かの避難の時、焼夷弾がいつぱい落ちてきて、避難してきた人の太ももに刺さって燃えているのを目の前で見ました。

7月の朝8時頃、家を出ると空襲警報が鳴り、同時に石つぶての爆風が道路に沿って玄関の前まで来たため、すぐ家に入り、3歳の妹と5月に生まれた妹に、防空頭巾を被せて、押し入れに入れました。それから、すぐ爆風が家の中に来て、縦1・8m、横60cmの窓ガラス4枚がボンと割れ、押し入れに入った二人の妹と私は、難を逃れました。母親が外から帰って

大阪大空襲

1945年3月13日深夜から翌日未明にかけて最初の大阪大空襲があり、その後、6月1日、6月7日、6月15日、6月26日、7月10日、7月24日、8月14日に空襲があった。これらの空襲で1万人以上の一般市民が死亡したと言われている。

空襲警報

敵軍航空機による空襲から避難を促すためにラジオやサイレンなどで知らせる警報。

防水桶

空襲による火災の消火活動(防火)を目的として、家屋の玄関先や庭に水を張って置いておいた桶のこと。

空襲

航空機から地上を爆撃したり、銃撃したりすること。

グラマン機

アメリカ合衆国のグラマン社が開発しアメリカ海軍が第二次世界大戦中盤以降に使用した艦上戦闘機。

機銃掃射

機関銃の銃口を動かし、敵をなぎ払うように射撃すること。

防空壕

空からくる敵の攻撃に対し、避難するために掘ってつくった穴やみぞ。

焼夷弾

敵の建造物や陣地を焼くことを目的とした砲弾や爆弾。木造の日本家屋を効率よく焼き払うために使用された。

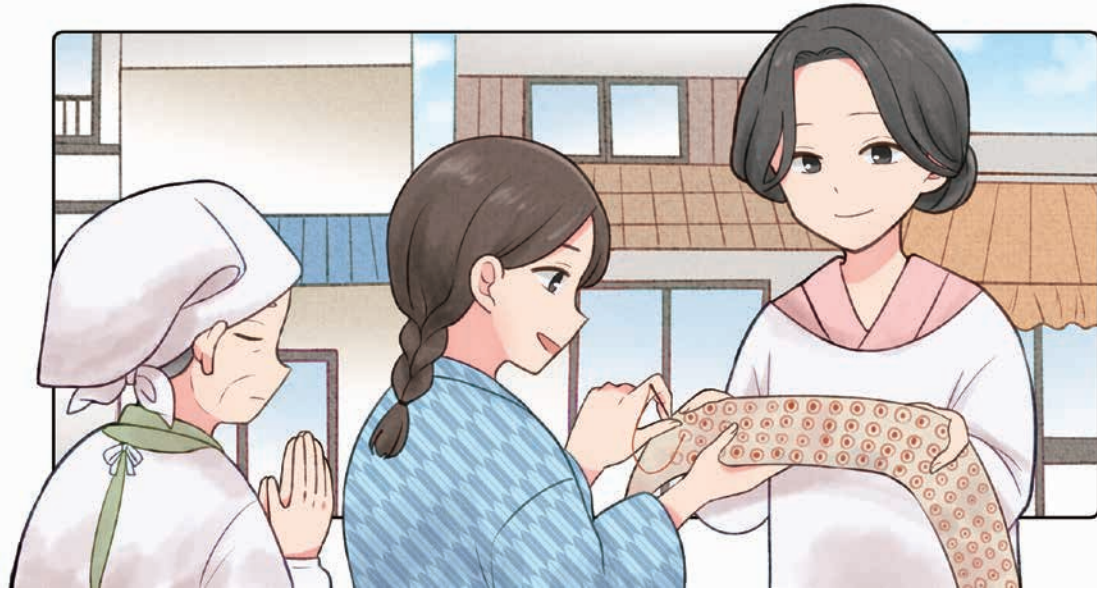
防空頭巾

戦時中、空襲などの際に飛来物から頭を守るためにかぶった綿入れの頭巾。



疎開

堺市 田中 伸彦 85歳



きて、兄妹3人が無事であったことを喜んでくれました。後から聞いたことですが、1トン爆弾と聞いていたのは、5トンの**原爆**の模擬爆弾だったそうです。

戦後は食料不足で、食べ物全然ありませんでした。母親と二人で近鉄古市駅のお百姓に、物々交換で絹の着物をお米やサツマイモに交換してもらいました。母親75kg、私5kgのリユツクサツクを担ぎましたが、帰りの電車の中、針中野駅を越えたところで、**経済警察**に全部没収されました。**配給制**の時代だから、闇で買うことが禁止されていた。時代だから、闇で買うことが禁止されていた。

米は食べられず、サツマイモの蔓を食べて日々を過ごしました。

戦争をしない社会づくりのためには喧嘩をしないこと。周りの人を大切に、会話をすること。これから育ってくる子どもたちには、自分たちがどうしたらいいのか、考えてほしいです。



原爆の模擬爆弾 提供：ピースおおさか

太平洋戦争の始まる前年の昭和15年7月阪神香櫨園駅の海側で誕生。仲間や近所には戦死者のいる家族がいる中、身内に**南方**に出征していて生死が分からない者も居ましたが、幸い戦死を免れ引き揚げの事ができ、身内に戦死者がいないのは珍しいな！と色々な方から言われました。

戦争が激しくなり、父は職場を失い昭和19年、父の故郷鳥取市に父母・姉・**小生**・妹と5人で**疎開**し、家主の狭い離れを借りての生活。お袋は初めての土地に戸惑い食べ物を求めている。

原爆
原子爆弾のこと。ウラン、プルトニウムなど核分裂反応で発生する熱線・爆風・放射線で殺傷、破壊する爆弾。

経済警察
戦争が終わった直後の、極度の物不足によって混乱した経済秩序を立て直し、国民が飢え死にしないよう厳しく監視した警察活動のこと。

配給制
数量が十分でない物資を家庭ごとにわけて配る制度。

朝鮮戦争
1950年6月から1953年7月にかけて朝鮮半島でおきた戦争のこと。北朝鮮の侵攻によって始まった戦争で、アメリカ軍が主体となった国連軍と中国軍・北朝鮮軍が激しい戦闘を繰り返した。

太平洋戦争
1941年(昭和16)の開戦から1945年(昭和20)の降伏調印までの日本「大日本帝国」とアメリカ・イギリス・オランダなどの連合国との戦いのこと。

南方
大日本帝国軍が第二次世界大戦で進攻していた東南アジア地域。

出征
軍隊に加わって戦地に行くこと。

小生
自分のことを指す謙虚な表現。

疎開
攻撃的となりやすい都市に住む児童、老人、女性などを分散させ、田舎に避難させること。



買い出しは、行く当てもなく大勢の人の流れに付いて行き、「少ないながらも買った！」と言っていた笑顔はなぜか今でも記憶に有ります。

疎開先では遊ぶ友達もいなくて寂しい思いをしながら、**新しい教育制度**が始まった昭和22年に小学校に入学。初恋は担任の女の先生でした。還暦を迎えた時に同窓会でこの先生に初恋の理由を話すと笑顔が帰ってきました。

小学校に入学時、父親が戦死した者、片腕が無い親、**満州**から引きあげる時期がずれて、入学出来ず1年遅れての入学のため1歳年上の仲間もいて、1学年上に広島**の原爆**に遭遇した先輩もいました。

18歳の時に大阪で就職し、上司から**満鉄**での仕事の苦労話や引き上げ時の苦労話、シンガポールのチャングー刑務所での**捕虜生活**、**シベリア**での捕虜の過酷な生活を聞きました。高校でも南方に出征した教師が数人おられ「お前達に戦争の悲劇は二度と味わわせない」と何度も聞かされていました。

終戦後、駅頭で白衣を着た**傷痍軍人**さんが募金活動をされていました。顔に大きな傷が残る方、手足を無くし義手や義足を付けた方たち。戦地で苦労された事が、一目見て分かりました。話が前後しますが、戦争が始まると我が子が出征する前に、無事を祈るために市場の前などで割烹着姿の女性が「千人針（赤い糸を千人の方に結んで貰う）」のために並んでいた姿の記

憶が有る最後の年代だと思っています。近くの博物館には薄汚れた千人針が展示されていますが、この方の生死までは説明文に書かれていないので無事に帰還されたと思います。

父母が**勤労奉仕**で一番つらかったのは、幼い子供を残して鳥取砂丘まで行き、飛行機を飛ばす燃料にする「**松根油**」を抽出するための「松の根」を堀り起こす作業です。昼食は子供達と同じ、さつまいもの蒸した物だけ！

「**金属回収令**」のために、家庭内の鍋釜から火鉢まで供出。そのため水筒が無いので、瓢箪や竹で作った物で代用。小学校の校門の大きな鉄扉から、お寺の鐘まで供出。戦後入学した小学校と中学校には卒業するまで鉄扉は無く石で出来た門柱が有るだけでした。

野坂昭如氏の著書「火垂るの墓」に出て来る西宮市の回生病院近くで生まれていることから、映画版のエキストラに応募し、出演。撮影の合間、長門裕之さんと年齢が近かったので、戦争の記憶を話しました。西宮の苦楽園口駅には「戦災慰霊碑」と阪神淡路大震災の後に出来た「西宮震災記念公園の慰霊碑」「火垂るの墓記念碑」があります。

もしあの戦争が長く続いていたら著書の中の兄と妹になっていたらと思うと、戦争の無い平和な時代を喜びながらも、未来永劫「疎開」を経験するような子供達がいけない事を病みます。戦争は嫌だ！このような体験は、二度と味わいたくない！二度と子供たちに味わわせては駄

新しい教育制度
1947年の教育基本法・学校教育法に基づき、従来の複線型から「6・3・3・4制」の単線型へ移行した教育制度。義務教育が9年間（小6・中3）に延長され、男女共学や個性の尊重が導入された。

満州（満州国）
1931年（昭和6年）の満洲事変を機に、中国東北部を占領した日本の関東軍が32年に作った国家。日本の敗戦によって消滅した。

原爆
原子爆弾のこと。ウラン、プルトニウムなど核分裂反応で発生する熱線・爆風・放射線で殺傷、破壊する爆弾。

満鉄（南満州鉄道）
南満洲の鉄道会社。日露戦争に勝利した後、1905年（明治38年）に締結されたポーツマス条約に基づき、東清鉄道南満洲支線（長春・旅順間鉄道）などはロシアから日本に譲渡された。この鉄道事業および付属事業を経営する目的で1906年（明治39年）に設立された半官半民企業。日本の満洲経略において重要な位置を占めた企業ともなった。

捕虜
戦争や武力紛争に際し、敵軍に捕らえられた者。

シベリア
ロシア連邦の中部から東部にかけての地域。シベリアに連行された日本の軍人・軍属はマイナス30度を下回る厳しい環境で強制労働を強いられた。衛生環境や食料事情も悪く、飢えや病気によっておよそ6万人が命を落とした。

傷痍軍人
戦争において傷痍を負った軍人・軍属。

勤労奉仕
無償で労働することで国家に貢献すること。

松根油
松の根株を蒸し焼き（乾留）にして抽出した油のこと。太平洋戦争末期、石油資源が枯渇した日本で、航空機用の代替燃料として極めて厳しい状況下で製造・増産された。

金属回収令
1941年（昭和16年）8月に制定された、戦争に必要な金属鉄、銅、アルミ等を国が強制的に回収した法令。



火垂るの墓記念碑

め
目だ！^{てんべんちい}天変地異はまだまだ人の力だけでは止められないと思いますが、戦争は人の力で止められるので、世界が相互理解で平和を築く努力を忘れないで欲しいです。

^{てんべんちい}天変地異

人間がコントロールすることできない、自然界の巨大な力が引き起こす激しい変化を指す。